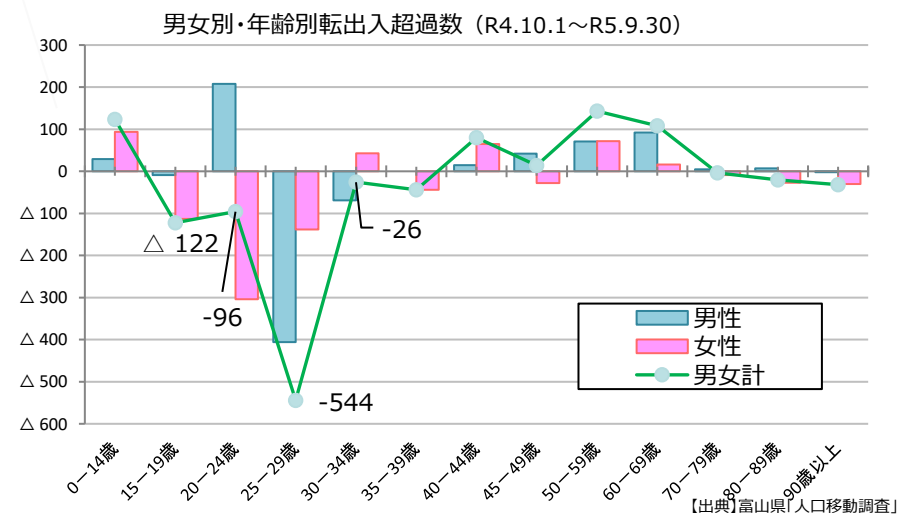
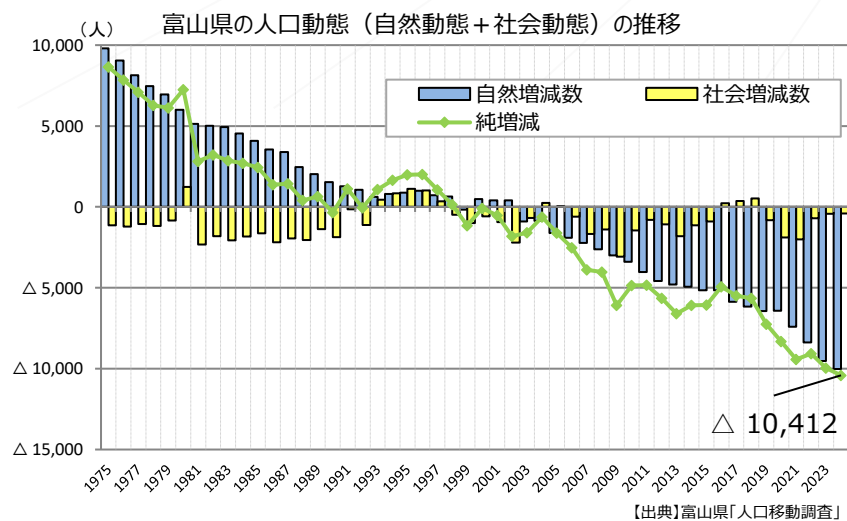
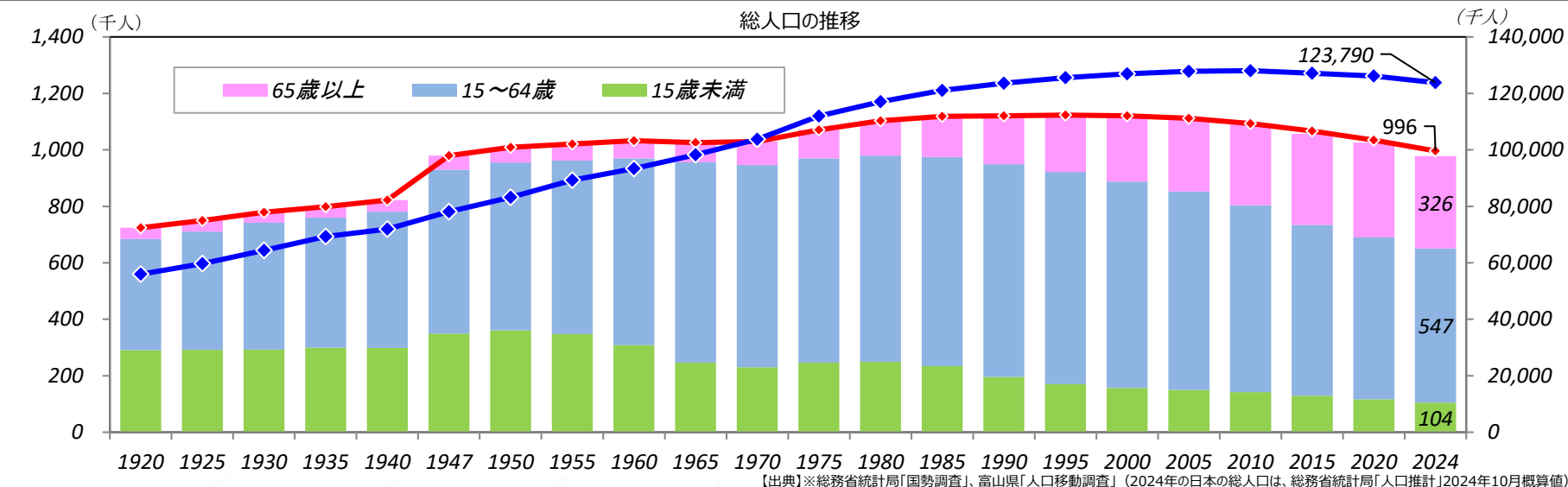


富山県人口未来構想 ①人口の現状分析

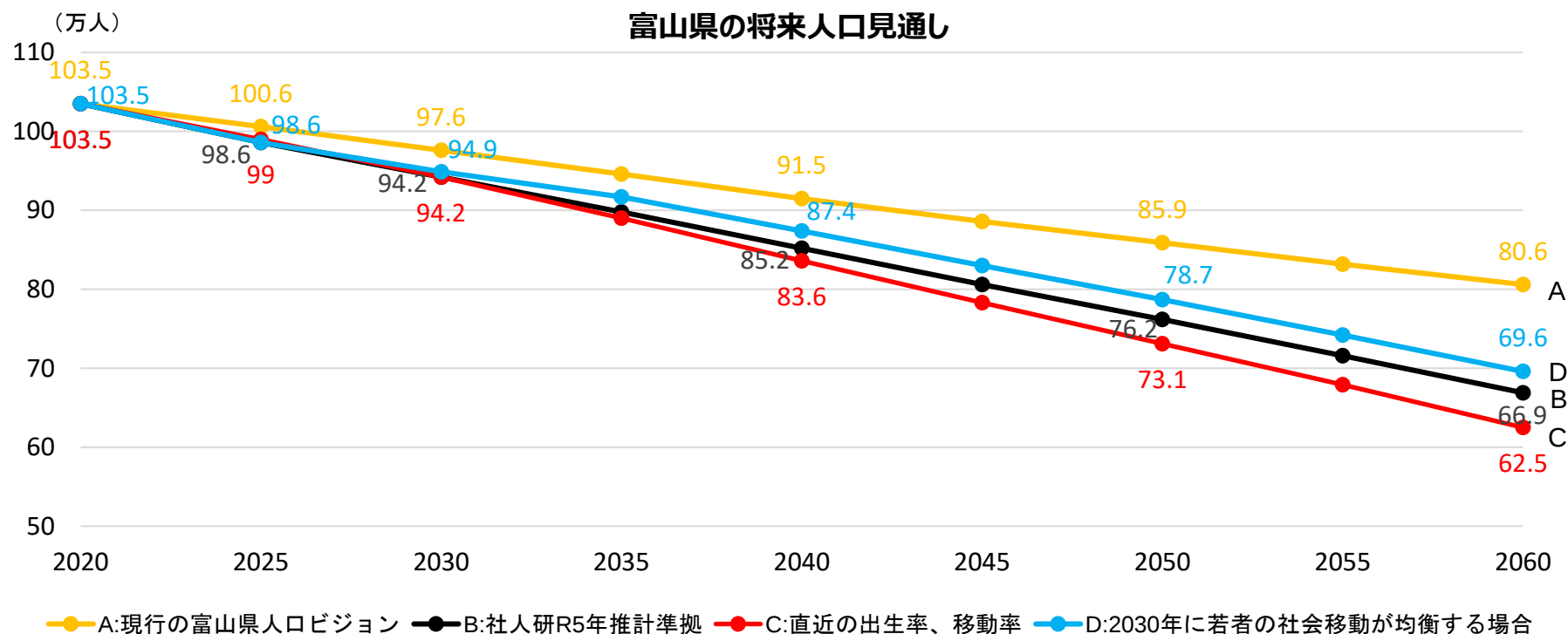
資料1

- 本県の人口は1998年（H10）年をピークに減少が続く。65歳以上が拡大する一方、15歳未満は減少が続いており、人口構成が変化。
- 自然動態（出生－死亡）社会動態（転入－転出）ともにマイナスが続いている状況。



富山県人口未来構想 ②人口の将来見通し

- 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計や直近の指標を用いて試算した結果、富山県の将来人口は2060年には60万人台まで減少する見込み
- 2030年に若年世代の社会移動が均衡する場合、2060年に約70万人となる見込み



（出所） 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」をもとに富山県試算

【試算の仮定等】

- A：現行の富山県人口ビジョン…自然増減：2030年：1.9、2040年：2.07、社会増減：2020年までに若者（15～34歳）の移動均衡
- B：社人研R5年推計準拠…自然増減：2025年：1.31、2030年：1.35、2035年：1.39、2045年：1.40、2050年以降：1.40程度で推移
社会増減：2025～2030年の間に転入超過に転じ、以降継続
- C：直近の出生率、移動率を用いた試算…自然増減：社人研推計（R5年推計）による2025年の出生率（1.31）が継続
（現行の水準が継続すると仮定） 社会増減：独自試算（2023年富山県人口移動調査をもとに試算）した2023年の移動率が今後も継続
- D：2030年に若者の社会移動が均衡するとして試算…自然増減：社人研推計（R5年推計）に準拠
社会増減：2023年の15～34歳の転出超過数（※）が段階的に縮小（※2020人。総務省「2023年住民基本台帳人口移動報告」より）

富山県人口未来構想 ③直ちに取り組むべき施策

○富山県人口未来構想本部での議論を踏まえ、人口減少への対応として直ちに取り組むべきものについて、令和7年度当初予算に反映するとともに、人口未来構想としてとりまとめ。

富山県人口未来構想本部（本部長：知事）
R6.4設置、計7回の会議で部局を横断して議論

